

遺伝子組換え食品の検査法

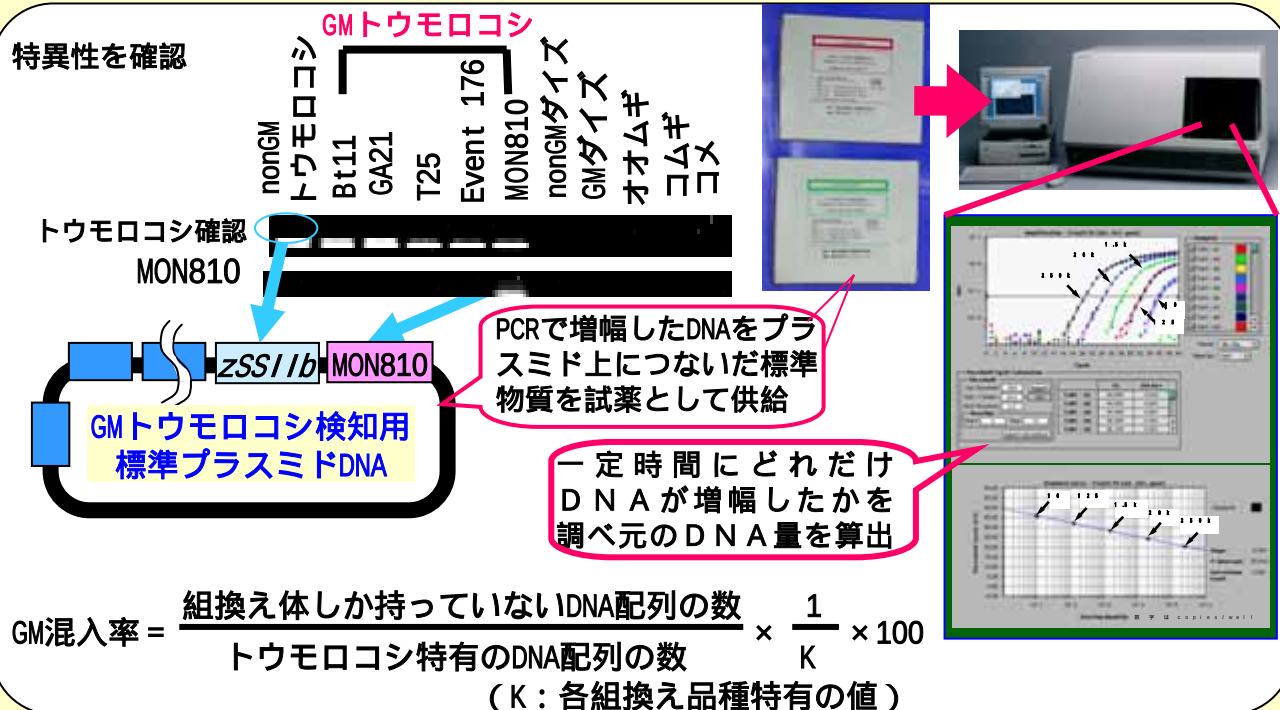
- 表示の監視と原料の品質管理のための技術開発 -

研究の内容

2001年から始まった遺伝子組換え(GM)食品の監視と産業界が必要とするnonGM農産物の品質管理技術として、定性および定量検査技術を、国立医薬品食品衛生研究所、農林水産消費技術センター等と協力して開発した。

技術の特徴

分析用標準物質として、各種の遺伝子組換え農産物に特異的に存在する組換えDNA領域を設計し、PCR産物を一つのDNAプラスミド上に配列する手法を確立。高特異性、高品質なPCR分析用標準物質の供給が可能となり、再現性の優れた組換え農産物の定性及び定量分析法を世界で初めて確立し、日本・韓国の標準分析法に採用されている。



今後の展開

CODEX, ISOにおける国際標準化
新たに許可されるGM農産物の検知
技術の開発
迅速・安価な検知技術の開発

参 考

- 1) Kuribara H. et al., J. AOAC Int., 85, 1077-1089 (2002)
- 2) Shindo Y., et al. J. AOAC Int., 85, 1119-1126 (2002)
- 3) Matsuoka, T. et al., J. Agr. Food Chem., 50, 2100-109 (2002)



独立行政法人
食品総合研究所

代表研究者：日野 明寛
所 属：GMO検知解析チーム
問合わせ先：〒305-8642
茨城県つくば市観音台2-1-12